

I

共同研究

1. 基幹研究

【近世地域アーカイブズの構造と特質】

プロジェクト代表者：高橋 実

プロジェクト参加者：大高洋司、大友一雄、渡辺浩一、青木 陸、西村慎太郎、山田哲好、入口敦志、加藤聖文、工藤航平、久留島浩（国立歴史民俗博物館教授）、白井哲哉（筑波大学准教授）、西向宏介（広島県立文書館副主任研究員）、東 昇（京都府立大学准教授）、松澤克行（東京大学史料編纂所助教）、山崎一郎（山口県文書館専門研究員）、山崎 圭（中央大学准教授）、吉村豊雄（熊本大学教授）

(1) 概 要

今年度は、館蔵の地域史料や商人史料、地域の史料保存機関が所蔵する史料を主な対象に、昨年に引き続き①文書・書籍の作成や管理・保存、ならびに利用や廃棄のシステムを歴史的に究明する研究、②伝来経緯や環境に留意し組織の構造・機能との関連で資料群の全体像を理解する研究、③これらの情報の整理記述、モノそのもののコントロールについての研究という、3つの柱を設定し、研究会・資料調査、情報記述、情報の公開に関する試験的な試みを行った。また、平成23年3月11日の東日本大震災による地域アーカイブズの甚大な被災状況を踏まえ、震災と地域アーカイブズ問題について救出実践などを通じて課題抽出に努めた。対象とした主たる史料群は領主・商人文書などであり、史料群構造、編成記述論などを中心に集中的に検討した。

(2) 活動記録

[研究会]

研究組織メンバーなどを中心に4回開催した。（一部は科研費による研究課題との合同研究会）

・第1回研究会

平成23年6月11日（土）国文学研究資料館第2会議室

- 1 大友一雄「藩庁文書の引継ぎ－編成記述のための歴史学的アプローチの可能性」
- 2 青木 陸「釜石市復旧作業6月2日～6月10日について」

平成23年6月12日（日）国文学研究資料館第2会議室

- 3 高橋 実「藩政アーカイブズの管理システム」
- 4 山田哲好「弘前藩の文書管理」

・第2回研究会

平成23年10月8日（土）国文学研究資料館第2会議室

- 1 吉村 豊雄「藩政文書と地方文書の接続形態」
- 2 林 匡「薩摩藩の藩政文書管理について－法令集編纂、管理規定と筆者（書役）の検討を中心に－」

平成23年10月9日（日）国文学研究資料館第2会議室

- 3 渡辺浩一「地主・商家文書階層構造分析の模索－尾張国名古屋元材木町神戸家を事例に－」
- 4 西村慎太郎「松代八田家文書の史料群構造」
- 5 西向宏介「商家と文書管理－芸備地方の事例をもとに－」
- ・第3回研究会
平成23年11月27日（日） 筑波大学東京キャンパス文京校舎117講義室
 - 1 太田富康「目録編成記述の課題」
 - 2 清水善仁「アーカイブズ編成・記述論の新視角－大学アーカイブズを中心に－」
- ・第4回研究会
平成24年1月21日（土） 国文学研究資料館第1会議室
 - 1 加藤昌宏「『佐竹文庫』の資料構造と形成・伝来過程」
 - 2 林 千寿「松井家文書の伝来過程」
- 平成24年1月22日（日） 国文学研究資料館第1会議室
 - 3 山口華代「対馬藩の記録体系と御書札方」
 - 4 富善一敏「嘉永4年（1851）旗本天野氏上方知行所村々江戸直訴一件について－上方代官の役割と記録システムの解明に向けて－」

館内研究会（当基幹研究を推進するための館内研究者による研究会）

- ・第1回推進研究
平成23年5月12日（木） 国文学研究資料館第4会議室
 - 1 青木 睦「被災アーカイブズと文化財レスキューについて」
- ・第2回推進研究
平成23年5月25日（水） 国文学研究資料館第4会議室
 - 1 山田哲好「収蔵歴史アーカイブズの他機関撮影情報の集約結果」
 - 2 西村慎太郎「大震災と地域アーカイブズの保存について」
- ・第3回推進研究
平成23年9月15日（木） 国文学研究資料館第4会議室
 - 1 工藤航平「真田宝物館所蔵真田家文書の保存容器について」
- ・第4回推進研究
平成23年10月20日（木） 国文学研究資料館第4会議室
 - 1 西村慎太郎「信州八田家文書の史料群構造と編成記述」
- ・第5回推進研究
平成23年10月27日（木） 国文学研究資料館第4会議室
 - 1 加藤聖文「アーカイブズ編成記述論と史料目録刊行」
- ・第6回推進研究
平成23年2月16日（木） 国文学研究資料館第4会議室
 - 1 大友一雄「基幹研究の成果取りまとめとその方法について」

[資料調査]

主要な資料調査は次の通りである。館蔵真田家文書に関わり、真田宝物館所蔵真田家文書の収納容器と伝来について調査を実施した。また、国内諸機関による当館蔵史料撮影についての情報集約・資源化研究に関連して、熊本市立図書館・八代市立博物館・熊本大学付属図書館・福井県文書館・福井県立図書館・愛知県総務部法文書課県史編纂室・愛知県公文書館・大阪市立中央図書館・住友史料館

などで調査を実施した。

〔公開研究集会〕

・「藩政アーカイブズの現状」(地方史研究協議会との共催)

平成23年11月26日(土) 筑波大学東京キャンパス文京校舎119講義室、参加者60名

中野達哉「弘前藩江戸日記の管理と日記役」

江藤彰彦「福岡藩の記録仕法と記録管理」

〔研究成果〕

アーカイブズ情報の編成論研究などを踏まえてデータベース「信濃国松代真田家文書」を収蔵歴史アーカイブズの一部として公開した(5万2162レコード)。また、研究の進展を踏まえて「日本実業史博物館コレクション」、「収蔵歴史アーカイブズ」の両データベースの充実化を計った。

さらに推進研究などでの検討を通じて調査収集事業部から『史料目録』第94集(信濃国埴科郡市松代伊勢町八田家文書その4)、『史料目録』第95集(近現代文書その1)を刊行した。

〔近世における蔵書形成と文芸享受〕

プロジェクト代表者：大高洋司

プロジェクト参加者：神作研一、入口敦志、佐藤 温、芦田耕一(島根大学名誉教授)、飯倉洋一(大阪大学大学院教授)、井上泰至(防衛大学校准教授)、井上敏幸(佐賀大学地域学歴史文化研究センター特命教授)、大石房子(清泉女子大学非常勤講師)、大谷俊太(京都女子大学教授)、大谷節子(神戸女子大学教授)、大庭卓也(久留米大学准教授)、小川陽子(松江工業高等専門学校講師)、勝又 基(明星大学准教授)、加藤弓枝(豊田工業高等専門学校准教授)、亀井 森(鹿児島大学准教授)、川平敏文(九州大学准教授)、菊池庸介(福岡教育大学准教授)、久保田啓一(広島大学大学院教授)、倉島利仁(静岡学園高等学校教諭)、黒石陽子(東京学芸大学教授)、進藤康子(九州情報大学非常勤講師)、田中則雄(島根大学教授)、中川 豊(帝塚山大学全学共通教育センター講師)、二又 淳(明治大学非常勤講師)、原 豊二(米子工業高等専門学校准教授)、菱岡憲司(有明工業高等専門学校助教)、森澤多美子(静岡県富士見高等学校教諭)、盛田帝子(相愛大学非常勤講師)、山崎真克(比治山大学准教授)、若木太一(放送大学客員教授)

(1) 概 要

前年度の準備研究において各チームが策定した課題に基づいて、7ヵ所の所蔵先(*)を対象に調査研究を進めた。また2度の共同研究会を開催して計4チームが成果報告を行い、質疑応答を通じて知見を共有した。

* 八戸市立図書館南部家旧蔵本(青森県)・矢口丹波記念文庫(群馬県高崎市、矢口家〈八幡八幡【やわたはちまん】神社〉)・新日吉神宮蘆庵文庫(京都市)・祐徳稲荷神社(佐賀県鹿島市、鍋島家)・三島市郷土資料館勝俣文庫(静岡県、勝俣家)・富加町郷土資料館(岐阜県、平井家)・手銭家(島根県出雲市)

(2) 活動記録

〔研究会〕

・第1回研究会

平成23年5月27日(金) 国文学研究資料館オリエンテーション室

1 「富加」チーム

中川 豊「平井家文芸資料の構成と集積」

神作研一「平井家来翰とところどころ」

2 「蘆庵」チーム

飯倉洋一「妙法院宮グループと蘆庵文庫」

加藤弓枝「蘆庵文庫の蔵書形成―書籍講を中心に―」

3 共同討議

・第2回研究会

平成23年12月17日（土）・18日（日） 国文学研究資料館オリエンテーション室

1 「三島」チーム

森澤多美子「俳関連水とその蔵書」

勝又 基「勝俣文庫の蔵書目録」

2 「手銭」チーム

田中則雄「手銭家の蔵書はいかにして形成されたか」

佐々木杏里「手銭家概略と蔵書について」

芦田耕一「出雲歌壇における出雲大社」

3 共同討議

4 現況報告：「八戸」・「矢口」・「蘆庵」・「祐徳」・「富加」各チーム

[資料調査]

祐徳稲荷神社（5/6、11/18～20）、三島市郷土資料館（5/29、6/26）、矢口丹波記念文庫（6/30、8/22～24、3/8～11）、富加町郷土資料館（7/23～25）、手銭記念館（8/28～29、3/14）、八戸市立図書館（9/4～6、2/26～29）、蘆庵文庫（11/25～27）以上各チーム（手銭は8/28、3/14のチーム内研究会を含む）

盛田帝子 2/16～18、3/15～17 国文学研究資料館（八戸関連調査）

伊藤善隆 8/28～30、3/13～14 手銭記念館（手銭関連調査 8/28、3/14の研究会を含む）

2. 特定研究

【在米絵入り本の総合研究】

プロジェクト代表者：小林健二

プロジェクト参加者：大友一雄、武井協三、寺島恒世、齋藤真麻理、江戸英雄、恋田知子、石川 透（慶應義塾大学教授）、黒田 智（金沢大学准教授）、ケラー・キンブロー（コロラド大学准教授）、小峯和明（立教大学教授）、高岸 輝（東京工業大学准教授）、徳田和夫（学習院女子大学教授）、ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授）、福原敏男（武蔵大学教授）、藤原重雄（東京大学史料編纂所助教）、ロバート・キャンベル（東京大学教授）、ロペルタ・ストリッポリ（ニューヨーク州立大学准教授）、渡辺雅子（メトロポリタン美術館主任研究員）

(1) 概 要

本年度は研究会を2回開催し、4人の共同研究員がこれまでの調査成果の個別報告を行った。また、9月にはニューヨークのコロンビア大学で国際シンポジウムを開催し、本共同研究から10人の共同研究員が共同研究の成果に基づく研究発表を行った。資料調査では、複数の研究員がニューヨークを中心としてアメリカ東部地区の絵入り本資料調査を行った。

(2) 活動記録

[研究会]

・第1回研究会

平成23年5月21日(土) 国文学研究資料館第1会議室

- 1 当館蔵『扇の草子屏風』『役者絵尽くし』見学会
- 2 武井協三「シカゴ美術館蔵『役者絵づくし』について」
- 3 安原真琴「国文学研究資料館本『扇の草子』について」

・第2回研究会

平成24年1月7日(土) 国文学研究資料館第1会議室

- 1 黒田 智「東国の鳴動と富士山図」
- 2 落合俊典「スペンサー本袈裟曼荼羅」
- 3 合同討議

[シンポジウム]

・シンポジウム「日本の視覚文化－芸能・メディア・テキスト－」

期日：9月16日(金)～17日(土)、会場：コロンビア大学ケントホール、参加人数概数：100人

平成23年9月16日(金)

基調講演 ハルオ・シラネ「中世から近世にかけての日本の視覚文化の変動」

第1部 異界・異類の文学－説話から絵巻物へ

- 1 小峯和明「竜宮をさぐる－異界の形象」
- 2 齋藤真麻理「異類物と絵画表現－神仏の使者の物語」
- 3 ケラー・キンブロー「『酒吞童子』絵巻の置き捨て死体と江戸初期の「不浄観」思想」
- 4 マックス・モーマン「悪鬼とエロティシズム－日本仏教の想像力における女の島」
- 5 徳田和夫「妖怪の形象－お伽草子絵巻における達成－」

第2部 名所と文化の時空

- 6 高岸 輝「交差する縁起と仏画」
- 7 マシュー・マッケルウェイ「豊国社前の「猿楽之能」－新出八曲本《洛中洛外図屏風》における豊臣追悼の一点景」
- 8 迫村知子「花見・歌・表象：テキストとイメージによる吉野像」
- 9 鈴木 淳「北斎画『東遊』におけるイメージとテキスト」

平成23年9月17日(土)

基調講演 今西祐一郎「絵入り本と文字」

第3部 王朝文化の再生－絵巻から江戸の視覚文化まで

- 10 寺島恒世「歌人の絵姿－歌仙絵の成立と展開－」
- 11 石川 透「源氏絵・奈良絵本にみる王朝文化」
- 12 メリッサ・マコーミック「『菊の精物語』における花の擬人化と皇統の再生について」
- 13 アンドリュー・M・ワツキー「16世紀日本における茶の湯の道具と和歌について」

第4部 芸能と絵画－いくさがたりと女性－

- 14 小林健二「絵画化された語り物の世界－「武文屏風」をめぐる」
- 15 鈴木博子「時代浄瑠璃の女性登場人物」
- 16 ロベルタ・ストリッポリ「無伴奏の歌、拍子無しの舞：近代の巻物と絵本に表現された白拍子」

〔資料調査〕

小林健二 9/18 メトロポリタン美術館（物語絵巻関連調査）
寺島恒世 9/18 メトロポリタン美術館（歌仙絵巻関連調査）
徳田和夫 9/18～19 メトロポリタン美術館（御伽草子関連調査）
鈴木 淳 9/18 メトロポリタン美術館（絵入り本関連調査）
鈴木 淳 9/19～20 ニューヨーク公共図書館（絵入り本関連調査）
齋藤真麻理 9/14～15 ニューヨーク公共図書館（物語絵関連調査）
齋藤真麻理 9/18 メトロポリタン美術館（物語絵関連調査）
恋田知子 9/14～15 ニューヨーク公共図書館（説話絵関連調査）
恋田知子 9/18 メトロポリタン美術館（物語絵関連調査）
小峯和明 9/18 ボストン美術館（仏教説話絵関連調査）
小峯和明 9/19～20 ハーバード大学フォッグ美術館（仏教説話絵関連調査）
小峯和明 9/21～22 メトロポリタン美術館（仏教説話絵関連調査）
高岸 輝 9/18 シカゴ美術館（物語絵巻関連調査）
9/20～21
渡辺雅子 1/4～6、1/10～14、1/16 国文学研究資料館（物語絵関連調査）

【近世的表現様式と知の越境—文学・芸能・絵画による総合研究—】

プロジェクト代表者：山下則子

プロジェクト参加者：武井協三、井田太郎、丹羽みさと、浅野秀剛（大和文華館長）、伊藤善隆（湘北短期大学准教授）、岩切友里子（国際浮世絵学会編集委員）、加藤定彦（立教大学教授）、倉橋正恵（立命館大学アトリサーチセンター客員研究員）、佐藤恵里（高知県立大学教授）、崔京国（明知大学校教授）、延広真治（東京大学名誉教授）、原 道生（明治大学名誉教授）、光延真哉（白百合女子大学講師）、武藤純子（清泉女子大学非常勤講師）、安原真琴（立教大学非常勤講師）、山本和明（相愛大学教授）、吉丸雄哉（三重大学准教授）

(1) 概 要

共同研究会を、合計6回開催した。毎回の共同研究会では、研究発表の他に購入した古典籍に関する報告や、平成24年10月～11月開催予定の展示会で展示する作品、シンポジウム内容の検討を行った。

(2) 活動記録

〔研究会〕

・第1回研究会

平成23年5月14日（土） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 山本和明「覆刻本版下について—草双紙を例に—」
- 2 原 道生「『やつし』再考—歌舞伎から人形浄瑠璃へ—」

・第2回研究会

平成23年8月3日（水） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 安原真琴「新出・国文学研究資料館蔵『扇の草子』型屏風—絵と文の交感—」
- 2 武井協三「『役者絵尽し』と雁首のすげかえ」
- 3 展示・シンポジウムに関する共同討議

・第3回研究会

平成23年10月15日（土） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 今西祐一郎「『絵入本』と『絵本』のあいだ」
- 2 高橋則子「見立絵本『〔道化生花〕』について」
- 3 展示・シンポジウムに関する共同討議

・第4回研究会

平成23年12月17日（土） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 崔京国「江戸戯作における『展示型見立て』」
- 2 伊藤善隆「明末詩箋の流布と影響―付：『文敏先生遺墨』について―」
- 3 陳可冉「異彩の伶人―狷高庸の生涯と文業―」

・第5回研究会

平成24年2月11日（土） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 延広真治「『奇妙図彙』講読」
- 2 崔京国「『〔開帳〕』（絵本霞の海）について」
- 3 展示に関する共同討議

・第6回研究会

平成24年3月13日（火） 国文学研究資料館オリエンテーション室

- 1 稲葉有祐「『句兄弟』の方法―後世への影響を中心に―」
- 2 武藤純子「せりふ正本と浮世絵」
- 3 展示に関する共同討議

[シンポジウム]

シンポジウム「表現様式と交流」（第4回日本文学国際共同研究集会）

期日：9月14日（水）、会場：ボローニャ大学文哲学部教室、参加人数：30人

武井協三「役者評判記と遊女評判記の交流―『おもはく哥合』について」

山下則子「見立絵本『〔見立花づくし〕』について」

[研究成果]

高橋則子「見立絵本『〔道化生花〕』について」、『近世風俗文化の形成』p169-198、平成24年3月、査読無

崔京国「江戸時代における『展示型見立て』―開帳を模倣したイメージの展覧会―」、第35回国際日本文学研究集會會議録『〈場所〉の記憶』p1～32、平成24年3月、査読無

[その他]

崔京国「江戸戯作における『展示型見立て』―開帳・見世物を模倣したイメージの展覧会―」、第35回国際日本文学研究集會公開講演 平成23年11月27日 於 国文学研究資料館

高橋則子「役者絵『見立三十六歌撰』について―文学と歌舞伎から―」、歌舞伎学会学術講演 平成23年12月11日、於 東京学芸大学

【陽明文庫における歌合資料の総合的研究】

プロジェクト代表者：中村康夫

プロジェクト参加者：寺島恒世、海野圭介、阿尾あすか、井原今朝男（国立歴史民俗博物館教授）、倉本一宏（国際日本文化研究センター教授）、久保木秀夫（鶴見大学講師）、後藤祥子（日本女子大学名誉教授）、小山順子（天理大学講師）、佐藤明浩（都留文科大学教授）、杉本まゆ子（宮内庁書陵部文書研究官）、名和修（財団法人

陽明文庫・文庫長)、日比野浩信(愛知淑徳大学非常勤講師)、山本登朗(関西大学教授)

(1) 概 要

今年度は展示を行い、図録も刊行し、研究成果のすべてを仕上げる年に当たる。

そのため、個別の調査も少しは入るが、もっぱら全体を進めるための打ち合わせが主となる。

(2) 活動記録

[研究会]

・第1回研究会(陽明文庫展の開催準備に関する研究会)

平成23年8月8日(月)～10日(水) 国文学研究資料館第2会議室

[資料調査]

中村健太郎 5/12～13 京都府立総合資料館(陽明文庫展出品資料の調査)

中村健太郎 6/10～11 陽明文庫(陽明文庫展出品資料の調査)

中村健太郎 7/28～31 陽明文庫(図録用の資料撮影)

海野圭介 7/9～10 逸翁美術館(歌合資料の調査と打ち合わせ)、玄海楼(古典籍・書画調査)

中村健太郎 8/19～21 陽明文庫(図録用の資料撮影)

中村健太郎 9/25～28 陽明文庫(陽明文庫展出品資料の借用)

海野圭介 11/5 逸翁美術館(古筆資料の調査)

中村健太郎 12/7～9 陽明文庫(陽明文庫展の出展資料の返却)

中村健太郎 2/24～25 大阪美術倶楽部(歌合の古筆資料調査)

中村健太郎 3/2～4 中尾松泉堂書店、逸翁美術館(歌合の古筆資料調査)

蘆田耕一 3/8～10 国文学研究資料館(歌合資料の調査)

日比野浩信 3/15 出光美術館、国文学研究資料館(歌合資料の調査)

山本啓介 3/15～16 国立歴史民俗博物館(歌合資料の調査)

中村康夫、寺島恒世、蔵中しのぶ、吉田小百合、赤澤真理 3/18～21 八幡神社、小鴨神社(三十六歌仙額の調査)

安道百合子 3/21～23 国文学研究資料館(研究成果打合せ)

※陽明文庫展研究会の研究内容・成果の確認(於 国文学研究資料館)

杉本まゆ子(10/7)、小山順子(10/7、2/20～21)、舟見一哉(10/7～8、12/17～18)、久保木秀夫(10/7)、日比野浩信(10/7)、山本登朗(10/8～9、11/6～7、2/29～3/1(於 鉄心斎文庫、国文学研究資料館、国立公文書館))、山本啓介(10/7～8、12/2～3)

[展示]

・特別展示「王朝和歌文化一千年の伝承」

会期：平成23年10月8日(土)～12月4日(日)、会場：国文学研究資料館展示室、入場者概数3,000人、入場料300円

[研究成果]

図録『近衛家陽明文庫王朝和歌文化一千年の伝承』を作成した。

[その他]

名和修氏の事前公演、連続公演など関連イベントも行われているが、本研究プロジェクトとは分けて考えている。

【久世家文書の総合的研究】

プロジェクト代表者：日下幸男

プロジェクト参加者：小林健二、海野圭介、西村慎太郎、浅田 徹（お茶の水女子大学教授）、岡村喜史（本願寺史料研究所客員研究員）、五島敏芳（京都大学総合博物館講師）、西山美香（明治大学兼任講師）、藤本孝一（龍谷大学客員教授）、安井重雄（兵庫大学准教授）

(1) 概 要

最終年度は久世家文書群の内、国文学研究資料館所蔵分の悉皆調査を終え、明治大学博物館所蔵分の調査を開始した。これまでの調査・研究の社会的還元として下記の研究展示及びシンポジウムを開催した。また展示パンフレットを作成し一般への成果の周知を図った。研究者に向けては研究報告書を作成し、しかるべき機関や個人に送付した。

(2) 活動記録

〔資料調査〕

海野圭介 4/14 龍谷大学（調整会議・資料調査）

日下幸男 8/24～27 国文学研究資料館（資料調査）

日下幸男 9/11～13 国文学研究資料館（資料調査・国文学研究資料館所蔵久世家文書全点の調査終了）

日下幸男 10/17～18 明治大学博物館（資料調査）

日下幸男 2/14～15 明治大学博物館（資料調査）

〔展示・シンポジウム〕

- ・研究展示「近世の和歌御会二〇〇年—久世家文書にみる公家の文事」

会期：平成23年5月23日（月）～6月24日（金） ※土・日曜日休館、会場：国文学研究資料館
展示室、入場者概数661人、入場無料

- ・シンポジウム「近世の公家文書と学芸」

期日：平成23年5月26日（木）、会場：国文学研究資料館大会議室

日下幸男「久世家文書と古今伝授」

浅田 徹「堂上から地下へ—典籍の流出・提供・活用—」

西村慎太郎「近世公家家職研究の展望と課題」

司会 海野圭介

〔研究成果〕

- ・『久世家文書の総合的研究』（平成24年3月 国文学研究資料館、全92頁）

日下幸男「久世家文書の研究」

日下幸男「久世家文書と古今伝授」

浅田 徹「堂上から地下へ—典籍の流出・提供・活用—」

西村慎太郎「近世公家家職研究の展望と課題」

加藤弓枝「久世家と古今伝授資料」

舟見一哉「久世通夏自筆短冊帖（五十葉） 影印と解題」

日下幸男「架蔵久世家文書について」

海野圭介「研究展示 近世の和歌御会二〇〇年—久世家文書に見る公家の文事 報告」

- ・「研究展示 近世の和歌御会二〇〇年—久世家文書に見る公家の文事」パンフレット

- ・海野圭介,「シンポジウム 近世の公家文書と学芸」,『調査研究報告』,第32号, pp.1-3, 2012年3月
- ・日下幸男,「久世家文書と古今伝授」,『調査研究報告』,第32号, pp.5-11, 2012年3月
- ・浅田 徹,「堂上から地下へー典籍の流出・提供・活用ー」,『調査研究報告』,第32号, pp.13-23, 2012年3月
- ・西村慎太郎,「近世公家家職研究の展望と課題」,『調査研究報告』,第32号, pp.25-34, 2012年3月
- ・日下幸男・海野圭介・大内瑞恵・中村健太郎「近世の和歌御会二〇〇年ー久世家文書にみる公家の文事」展示パンフレット, 2012年5月

【藤原道長の総合的研究ー王朝文化の展開を見据えてー】

プロジェクト代表者：大津 透（東京大学教授）

プロジェクト参加者：中村康夫、池田尚隆（山梨大学教授）、植村真知子（神戸学院大学准教授）、磐下 徹（関東学園大学講師）、大隅清陽（山梨大学教授）、木村由美子（都立中野工業高校教諭）、倉本一宏（国際日本文化研究センター教授）、近藤好和（国立歴史民俗博物館共同研究員）、佐藤信一（白百合女子大学教授）、佐々木恵介（聖心女子大学教授）、妹尾好信（広島大学教授）、武井紀子（国立歴史民俗博物館外来研究員）、塚原明弘（都立西高校教諭）、中島和歌子（北海道教育大学教授）、福長 進（神戸大学教授）、藤本勝義（青山学院女子短期大学教授）、松岡智之（静岡大学准教授）、丸山裕美子（愛知県立大学教授）、松野 彩（成蹊大学非常勤講師）、吉田小百合（総合研究大学院大学大学院生）、吉田幹生（成蹊大学准教授）

(1) 概 要

3回の研究会を開催し、藤原道長とその周辺をめぐる主に国文学研究者の側からの研究発表をうけて、歴史学研究と文学研究とが垣根を越えて討議を行い、『藤原道長事典』の具体的編集方針について検討した。

『藤原道長事典』は、A5判500頁程度（思文閣出版）で、ようやく完成した『御堂関白記全注釈』全16巻の成果を基礎としてそれを発展させることをめざす。しかしその項目と解説は必ずしも事典項目にはならないので調整と統合が必要で、あるテーマについての全体像を示す大項目も必要となる。また、これから平安時代の古記録を学ぼうとする初学者に役立つ、しかも『御堂関白記』に即した特色ある読ませる事典をどうすれば作ることができるか、検討を進めている。

(2) 活動記録

[研究会]

・第1回研究会

平成23年6月25日（土）国文学研究資料館第2会議室

- 1 福長 進「藤原道長の栄華と結婚」
- 2 大津 透「藤原道長事典のイメージについて」

・第2回研究会

平成23年11月12日（土）国文学研究資料館第2会議室

- 1 中島和歌子「『御堂関白記』の陰陽道」
- 2 藤原道長事典の立項方針について共同討議
- 3 特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌一千年の伝承」見学

・第3回研究会

平成24年3月10日（土） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 松岡智之「説話集の藤原道長」
- 2 運営委員会から藤原道長事典の立項作業についての中間報告と討議

【大福光寺本「方丈記」を中心とした鴨長明作品の文献学的研究】

プロジェクト代表者：浅見和彦

プロジェクト参加者：小林健二、寺島恒世、浅田 徹（お茶の水女子大学教授）、荒木 浩（国際日本文化研究センター教授）、磯 水絵（二松学舎大学教授）、木下華子（ノートルダム清心女子大学講師）、小林一彦（京都産業大学教授）、今野真二（清泉女子大学教授）、新聞水緒（花園大学教授）、田中宗博（大阪府立大学教授）、辻 勝美（日本大学教授）、野本瑠美（島根大学講師）

(1) 概 要

本年度は2回の研究会を実施し、6人の共同研究員がそれぞれ鴨長明の作品を対象とした研究報告を行った。また、国文学研究資料館を中心に関連資料の調査を進め、平成24年の春に予定している特別展示「鴨長明とその時代—『方丈記』800年記念」の開催に備えた。

(2) 活動記録

[研究会]

・第1回研究会

平成23年6月3日（金） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 木下華子「『方丈記』が我が身を語る方法 —『法門百首』『源氏物語』『紫式部日記』のことなど—」
- 2 小林一彦「鴨長明関係の在京資料を一つ二つ」
- 3 磯水絵「『方丈記』の時代—長明と景賢—」
- 4 共同討議

・第2回研究会

平成23年11月14日（月） 花園大学無聖館講師控室

- 1 神田邦彦「『方丈記』の略本に関する一考察」
- 2 野本瑠美「寿永百首としての長明集」
- 3 田中宗博「『発心集』から『方丈記』を読む」
- 4 共同討議

[資料調査]

- 小林一彦 6/2～4 国文学研究資料館（「方丈記」「鴨長明集」関連調査）
 新聞水緒 6/2～4 国文学研究資料館（「発心集」関連調査）
 荒木 浩 6/2～3 国文学研究資料館（「方丈記」関連調査）
 田中宗博 6/2～3 国文学研究資料館（「方丈記」「発心集」関連調査）
 木下華子 6/3～4 国文学研究資料館（「無名抄」関連調査）
 野本瑠美 6/2～4 国文学研究資料館（「鴨長明集」関連調査）
 新聞水緒 9/12～14 国立歴史民俗博物館・國學院大學図書館（「発心集」関連調査）
 新聞水緒 12/8～9 国文学研究資料館（「発心集」関連調査）
 小林一彦 12/26～27 神奈川近代文学館（堀田善衛「方丈記私記」関連調査）

【日本における宋版の伝来と受容についての研究】

プロジェクト代表者：牧野和夫

プロジェクト参加者：入口敦志、陳 捷、尾崎 康（元慶應義塾大学・附属研究所斯道文庫教授）、
椎名宏雄（龍泉院住職）、陳先行（上海圖書館歴史文献センター副主任）、長澤
孝三（元帝京大学教授）、中村一紀（宮内庁書陵部編修課実録編修室内閣府事
務官）、野沢佳美（立正大学教授）、芳村弘道（立命館大学教授）

(1) 概 要

第1回、第2回の研究会では、研究会のメンバーが共同研究のテーマに沿った発表を行った。その際、宋版の伝来に関係の深い展示を開催していた、印刷博物館・神奈川県立金沢文庫で研究会を行い、メンバー以外の参加を得て、活発な討議を行うと共に、関連資料の閲覧等を行い、有意義なものとした。この点については、今後の研究会の開催にもできる限り考慮したい。また、下記に記したとおり、メンバーは関連資料の調査を行うと共に、積極的に成果を発表している。

(2) 活動記録

[研究会]

・第1回研究会

平成23年6月17日（金） 印刷博物館

- 1 中西保仁「空海からのおくりもの」（展示解説・印刷博物館学芸員）
- 2 牧野和夫「高野山金剛峯寺蔵宋版大蔵経ほかについて」
- 3 共同討議
- 4 今後の活動についての打合せ

・第2回研究会

平成24年1月14日（土） 神奈川県立金沢文庫

- 1 尾崎 康「南宋前期建安刊『晋書』三種」
- 2 中村一紀「斯道文庫蔵福州版一切経「日本国僧慶政捨」の施財記を持つ断簡について」
- 3 共同討議
- 4 今後の活動についての打合せ

[資料調査]

芳村弘道 1/19～21 慶應義塾大学斯道文庫・宮内庁書陵部（宋版関連調査）

入口敦志 3/13 国際日本文化研究センター（宋版関連調査）

[研究成果]

牧野和夫「『思融－良含』周辺のこと・杭州出自の宋人のこと」『実践国文学』80号、2011年10月、pp45-58

牧野和夫「『沙石集』論一円照入寂後の戒壇院系の学僧たち」『実践国文学』81号、2012年3月、pp1-17

芳村弘道「董康『書舶庸譚』九卷本訳注（4）」『立命館白川静記念東洋文化研究所紀要』5号、2011年6月、pp25-40

芳村弘道「『選詩演義』考異：宋代『文選』版本としての『選詩演義』」『学林』53・54号、2011年12月、pp372-396

入口敦志「楼閣の唐破風－異世界表現の日中－」『東亜文化的伝承与揚棄』中国書籍出版社、2011年7月、pp252-262

3. 国際連携研究

【オランダ国ライデンを中心とするシーボルト関係日本書籍資料の調査研究】

プロジェクト代表者：鈴木 淳

プロジェクト参加者：古瀬 蔵、陳 捷、青山英正（明星大学准教授）、浅野秀剛（大和文華館長）、石川 了（大妻女子大学教授）、大石房子（清泉女子大学非常勤講師）、川平敏文（九州大学准教授）、ダーン・コック（ライデン大学非常勤講師）、鈴木俊幸（中央大学教授）、高倉一紀（皇學館大学・文学部・教授）、マティ・フォラー（ライデン国立民族学博物館学芸員）、ウィリアム・ボート（ライデン大学教授）、イヴォ・スミッツ（ライデン大学教授）

(1) 概 要

ライデン大学図書館においてシーボルト等が蒐集した日本書籍に関する調査を計2回実施。調査で得られた書誌的データを集積し、ライデン国立民族学博物館のものと統合した。研究会を国内において2回実施し、2回目の研究会ではオランダの研究者を招聘した。北米日本古典籍所蔵機関ディレクトリを国文学研究資料館ウェブサイトから発信。

(2) 活動記録

[研究会]

・第1回研究会

平成23年5月19日（木） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 鈴木 淳「プロジェクトの概要と現状の説明」
- 2 大石（金田）房子「水谷助六（豊文）とライデン民族学博物館蔵『鵠十八品写』について」

・第2回研究会

平成23年10月27 日（木） 国文学研究資料館オリエンテーション室

- 1 神林尚子「シーボルト関係コレクションにおける草双紙の位置づけ－半紙本型草双紙の伝来とその背景－」
- 2 ダーン・コック「ブロンホフ・フィッセル・シーボルトの日本書籍蒐集－能動的蒐集と受動的蒐集－」

[資料調査]

・第1回資料調査

鈴木淳、石川了、神作研一、大石房子、牧野悟資、神林尚子

8/6～14

ライデン大学図書館（シーボルト等が蒐集した日本書籍に関する調査）

・第2回資料調査（一部は科研費による研究課題の資料調査を含む）

鈴木淳、陳捷、神作研一、青山英正、大石房子、牧野悟資、神林尚子

2/26～3/4

ライデン大学図書館（シーボルト等が蒐集した日本書籍に関する調査）

[その他]

北米日本古典籍所蔵機関ディレクトリを国文学研究資料館ウェブサイトから発信。

1. 調査収集事業部

【総括】

調査収集事業部では、今年度も国内外の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、国内外の所蔵機関（90ヶ所）に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、撮影（マイクロフィルムまたはデジタル撮影）による収集、及びアーカイブズ調査収集である。調査については、ほぼ年度当初に予定していたとおりの成果を挙げることができた。収集については、年度予定の約7割の成果となった。

第一期中期目標期間に設定された基幹研究が昨年度終了したのを承け、新規の基幹研究として「近世における蔵書形成と文芸享受」を開始した。研究期間は平成25年度までの3年間である。昨年度に引き続き本年度も「リプリント日本近代文学」第6期40点を刊行中である。

なお、当館がかねて要求してきた収集マイクロフィルムをデジタル化して公開する事業が認可され、特別経費が措置されたことを受け、収集資料の所蔵機関からの許諾取得等、公開に関わる作業を分担し、鋭意遂行している。

【国内外の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

(1) 日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成23年度においては、約7,900点の調査、約2,060点の収集を行った。中心となる地域別調査・広域調査（計87ヶ所）のほか、先方機関と連携して行う連携調査（計4カ所）を行った。

(2) 日本古典籍資料調査データベース

平成22年度に調査したカードを中心に、画像データ約6,700件、書誌データ約6,500件の入力を行った。現在約144,000件が利用に供されている。約10,000件ずつ蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

(3) 調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』32号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント日本近代文学」第6期40点を刊行中である。

(4) 調査収集の成果の共有と還元のための取り組み

調査収集の成果は、これまでもマイクロフィルム公開等の形で国文学研究に寄与してきたが、それを更に推進するための取り組みとして、平成18年度、調査員を共同研究者とする基幹研究を開始した。「文学資源の総合研究」という研究テーマのもと「王朝文学の流布と継承」「19世紀における出版と流通」の二つの共同研究を5年間遂行し、平成22年度に終了した。その成果につき、前者は研究成果報告書の刊行により公表し、また、平成24年度に予定している著書の刊行に向けて編集等準備を進めた。なお、後者は研究期間中逐年の『調査研究報告』への論考掲載により、継続的に成果を公表し

てきた（第28～31号）。

平成23年度は、新たな基幹研究として「近世における蔵書形成と文芸享受」（研究期間：平成23年度～25年度）を開始し、資料調査・研究会開催等の活動を展開した。また、次年度予定のシンポジウムの準備を進めた。

(5) 収集マイクロフィルムの電子化

収集マイクロフィルムのデジタル公開を行うために所蔵者の許諾を得、所蔵資料のデジタル化を進めた。

【アーカイブズ調査・収集】

(1) 目録による史料群所在情報の調査

全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類を収集した。

(2) 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、保存と利用のための基盤整備として、信濃国埴科郡八田家文書（その4）・近現代文書（その1）を収録する『史料目録』第94・95集の2冊を刊行した。

(3) 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

幕藩関係文書では、伊豆の国市菰山町江川文庫の調査を行い、デジタル撮影による収集（110点）を実施した。

2. 電子情報事業部

【総括】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用をはかり、研究および事業の成果を電子情報として組織化し、データベース化を進め、研究者、大学院生、社会一般に、インターネットにより提供している。さらに、国内外の関連研究機関などとの連携を進めている。

情報システム環境は、第8期情報システム計画（平成22～27年度）の第2年度に当たり、平成23年2月1日に第7期情報システムからリプレース後、現在順調に稼働している。

一年を通じては、ほぼ24時間不断の稼働を保持し、情報システムと情報資源の安定的な管理運用を行い、高い信頼を得ている。

データベース公開事業は、29本のデータベースの公開を滞りなく行っている。安定的な公開を図るためデータ追加、更新などは時機を見つつ可能な限り迅速に対応している。各データベースには、個々に責任者と担当者を置き、高信頼度のサービスを維持している。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の管理運用業務は、学術情報課に属するシステム管理係と学術情報係が当たっている。また、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めた。

デジタル画像公開に関して、今年度も館蔵和古書画像の画像公開を進めるとともに、収集マイクロ資料画像として肥前島原松平文庫、光藤益子氏所蔵資料の公開を開始した。

電子情報事業部において、年度計画に応じた全事業は滞りなく進捗し、目標を達成し、利用者からも高い評価を得た。今年度も、情報システム環境の整備とデータベースを中心とする情報資源の機能

拡充に寄与した。データベース公開は、利用者、アクセスとも多くの利用件数を得ており、高い社会性と公開性を達成した。

【電子情報事業部の運営】

(1) 組織体制と運営

部長（古瀬蔵教授）を置き、副部長（山田哲好准教授）他、10名の教員の体制により事業を運営し、システム管理係、学術情報係が実務処理を担当した。

おおよそ隔月毎に定期的に部会を行い、全事業の進捗度をチェックし、計画の実施状況の把握と評価に務めた。また、電子情報事業に関わる多種の事項について審議、立案等を行った。

(2) 情報システムの運用管理

情報システムは、UNIXサーバおよびWindowsサーバによる分散型システムと館内LAN（基幹系、支線系1GB）に接続されたクライアントPCとで構成され、主に館内の様々な情報処理、並びにインターネット経由による館外データベースサービス等に用いられている。

第8期情報システムは平成23年2月1日より稼働を開始している。管理運用体制として、部長、副部長、他、10名の教員が当たり、実務、事務処理はシステム管理係並びに学術情報係が担った。なお、システムの日常的な監視、操作、記録等の実務作業は、部長、システム管理係の指示により、外注SEに分担させた。

情報システムは、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークから構成されるが、これらそれぞれについて、ほぼ365日24時間不断の安定稼働を実現している。情報システムに関する実績評価分析は、システム稼働状況（サーバ稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）による。また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行っている。とりわけ、情報システムで稼働しているデータベースの安定的稼働に努め、館内外の研究者等に重要なデータベースサービスを提供した。

平成22年2月1日から引き続き研究事業用システム端末（97台）及びプリンター（24台）の運用を行っている。特にセキュリティ、データ保守を重視し、システムソフトウェアのアップデートの一元管理、各PCデータの自動バックアップ等の仕組みを取り入れている。

平成20年2月1日から引き続き事務情報システム端末（37台）及びプリンター（8台）の運用を行っている。データ保守を重視し、各PCのデータ領域をファイルサーバ上に構築する仕組みを取り入れている。なお両システムは、平成24年度1月末でリース契約期間を終え、今年度中に更新を行う予定である。

(3) ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努め、また電子メール等へのウイルス侵入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ等を可能な限り速やかに行い、対処し、高信頼性の運用を保持した。

ウイルス対策ソフトについては、費用対効果及び対象機器の拡大のため、新しいシステムに入れ替えを行う予定であり、移行準備を進めている。

第8期情報システムでは、第7期システムで施した高いセキュリティ対策水準、厳重な接続機器の管理を維持しつつ、VirtualTecnologyによるサーバの仮想化やコンソールのリモート管理等、運用管理機能の一元化を推し進め、作業の効率化を図っている。

(4) 情報資源の運用管理

公開されている29本のデータベースの、年間を通じて切れ目のない24時間安定的な稼働を行い、館内外の利用者の評価を得た。データベースによっては、時機を見つつデータの追加拡充を進め、また誤り等の更新を速やかに行っている。なお、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、高信頼度の運用を行った。

(5) 情報サービスの向上

目的のデータベースへのアクセス数向上を進めるため、アクセス元情報等の利用統計分析、および、ウェブページのデザイン等の変更を行った。

【個別事業の実績、評価】

(1) 情報システムの運用管理

情報システムと情報資源のセキュリティ確保と安定的運用管理を行うため、以下のように業務を行った。

①情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ作業等は、部長の指揮の下、システム管理係により実施した。監視と操作作業は外注SEにより行い、係において分析評価した。今年度においては、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因する重大なシステム障害、およびネットワーク障害、さらに外部からの干渉（クラッキング等）による重大なシステム障害は発生していない。（システムの停止は、計画停電のために1回あった。）

一方、トラフィックの増大が主な原因と思われるネットワーク障害が度々発生したため、ボトルネックとなっていたネットワークプロキシを追加し、トラフィックの流れを分散化することによって軽減を図っている。この障害は、インターネットを利用した各種のサービスが多様化し、データ量等が増大する傾向が続く限り今後も再発が懸念される慢性的なもので、トラフィック監視の強化と適切な対策が今後の課題である。

PC系、プリンタ系の障害等については、システム管理係および業者の保守窓口による対応を図った。

②共同利用の推進

人間文化研究機構「研究資源共有化事業」に積極的に関わり、その責務を果たしている。また、人間文化研究機構に属する他の機関、国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館との安定的なシステム接続運用を行った。

③情報セキュリティの推進

平成21年4月1日に制定した情報セキュリティポリシーを今年度も継続して運用している。今年度は、ウィルス検知システムからのメールによる報告を迅速かつ正確に分析する仕組みを独自に構築、セキュリティインシデントの内容や緊急度によって適切な対応がとれるようにした。

(2) データベースの管理運用

データベースと関連システムの保存と運用管理を行っている。また、研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

今年度新規公開及びシステム変更・大幅なコンテンツ追加したデータベースは以下の通りである（全公開データベースの概要は付表1、利用統計は付表2をそれぞれ参照）。

新規公開：

○蔵書印データベース

○北米日本古典籍所蔵機関ディレクトリ
 ○所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース
 システム変更・大幅なコンテンツ追加：

- 近代書誌・近代画像データベース
- マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録
- 古事類苑データベース

日本古典文学本文データベースについては、平成24年1月末で運用を停止し、機能向上した新システムの開発を行った。平成24年度早々に新システムによる公開を行う予定である。

各データベースは、データベース管理簿を作成し、整理し、管理している。また、人間文化研究機構全体のデータベース台帳の作成に協力している。

付表1 HP「電子資料館」から公開しているデータベース

平成23年度 データベース利用統計 付：データベースサービスシステム総合窓口業務統計

付表1 HP「電子資料館」から公開しているデータベース

図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	
当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌（逐次刊行物）の目録データベース。図書約133,000件、雑誌約8,400タイトル。	
国文学論文目録データベース	
国文学関係論文（大正元年～平成20年）の目録データベース。約486,000件。	
日本古典籍総合目録	
日本の古典籍の書誌・所在についての情報を、著作・著者についての情報（典拠情報）とともに提供する総合目録データベース。『国書総目録』所載の所在・翻刻複製情報（写本、版本、活字・複製・謄写本）を併せて表示。書誌情報には、当館所蔵和古書とマイクロ／デジタル資料（国内外の古典籍を撮影収集した資料）も含む。著作約462,000件、著者約68,600件、書誌約477,000件。	
マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録	
当館所蔵のマイクロ／デジタル資料（国内外の大学・図書館等所蔵の古典籍を当館がマイクロ、デジタル撮影し、収集した資料）と和古書の目録データベース。検索結果から、古典資料調査データ及び原本、館蔵貴重書等へのデジタル画像へのリンクあり（一部）。マイクロ／デジタル資料約21,400件、和古書約15,000件。	
日本古典資料調査データベース	
当館が30年にわたり調査してきた国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出したデータベース（調査カード画像も参照可能）。約144,000件。	
近代書誌・近代画像データベース	
平成10年度より開始した、明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。書誌約32,500件、画像約1,600件。	
明治期出版広告データベース	
近代日本の出版事情を探ることを目的として、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成したものです。約44,000件の広告を収めており、書名・書肆検索や広告本文の全文検索機能も備えています。	
日本古典文学本文データベース	
『日本古典文学大系』（旧版、岩波書店刊）の全作品（100巻580作品）の本文（テキスト）データベース（利用登録制）。	
古典選集本文データベース	
二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語。古典作品原本の全文検索が可能。当館蔵書底本とし、泣き別れ検索にも対応。歴史物語は、栄花物語、大鏡、今鏡、水鏡、増鏡により構成。	
歴史人物画像（古典キャラクター）データベース	
国書古典籍中の絵入り叢伝から古典キャラクターの人物画像を集めてデータベース化したもの。おもに明治以前のものから挿絵の古典キャラクター画像（約3100名・4700件）のみを切り出し、各人物がどのように描かれてきたかを比較対照できる。	
連歌・演能・雅楽データベース	
寄託データベースである連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添えてセットにしたデータベース。	

コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録	
欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報データベース（ケンブリッジ大学のピーター・コーニツキー教授が収集・整理されたデータを順次追加・更新）。約13,000件。一部原本画像の公開あり。	
新奈良絵本画像データベース	
当館所蔵の奈良絵本（19本）の原本画像データベース（翻刻付）。	
史料情報共有化データベース	
国内外で公開されている資料群（アーカイブズ）情報のデータベース（歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築）。	
古事類苑データベース	
完成から約1世紀が経とうとしているにもかかわらず、日本最大規模の地位を今なお保ち続けている百科事典『古事類苑』のデータベース。テキスト版では『天部』『歳時部』『地部』『称量部』のテキストを公開、全文検索版では『天部』『歳時部』『地部』『称量部』が検索可能。	
古典学統合データベース（芳賀人名・地下家伝）	
日本古典籍研究に関わる人物情報をデータベース化。現在、芳賀矢一（1867-1927）編『日本人名辞典』（1914）と〔三上景文著・正宗敦夫（1881-1958）編纂校訂『地下家伝』（日本古典全集刊行会、1937.9-1938.8）6冊をデータベース化したものを搭載。歴史人物画像データベースにもリンク。	
収蔵歴史アーカイブズデータベース	
史料館旧所蔵の史資料群を中心に、マイクロフィルムによる関連収集史料、寄託史料などを含む歴史アーカイブズに関する概要及び史料目録データベース（画像掲載あり）。	
和刻本漢籍総合データベース	
当館収集のマイクロ資料中の和刻本の序跋刊記情報と所蔵和刻本の画像等を提供するデータベース。現在、序跋刊記情報のみ。	
古筆切所収情報データベース	
『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報データベース。約23,000件。	
アーカイブズ学文献データベース	
アーカイブズ学に関する国内研究文献のデータベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。11,000件。	
日本実業史博物館コレクションデータベース	
このデータベースは、日本実業史博物館準備室旧蔵資料の内の絵画・器物・広告の資料情報6,936件と13,643件の画像を公開しています。	
館蔵神社明細帳データベース	
当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格に関するデータベース。内務省管轄の公簿として作成された原本は当館において閲覧提供している。43,187件。	
伊豆菰山江川家文書データベース	
財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。	
伝記解題データベース	
当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化。	
日本文学国際共同研究データベース	
科研費基盤研究（S）「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究論文目録や論文画像のデータベース、翻訳作品データベース等。	
「史料所在情報・検索」システム	
国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報データベース（詳細版は利用登録制）。	
蔵書印データベース	
当館所蔵の古典籍を中心に原本から採取した蔵書印情報を、印影とともに一覧するデータベースシステム。他館の画像DBを参照した蔵書印情報や『近代蔵書印譜（初編～五編）』をはじめ数点の蔵書印譜からも印影等を収載。採録対象は、いわゆる蔵書印に加え、仕入れ印や貸本屋印を含む書肆印、蔵書票・書肆票の類、また、写本等で作成に関わった人物の印記や書画等の落款に及ぶ。	
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	
広島大学附属図書館に所蔵される200点を超える「読本（よみほん）」コレクションのうち、平成23年度は、43点分を最新のデジタル画像として公開する。本コレクションは、高い資料的価値を認められながら、様々な事情で実見の難しい時期が続いていたが、本DBにより、古典籍資料の共有化への貢献が可能になった。	
北米日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	
日本の古典籍を所蔵する北米の各機関について、住所、連絡先、所蔵規模、コレクション概略、閲覧の可否、複写の可否、目録の有無などの情報を英語で提供。一部機関については日本語でも情報提供。東アジア図書館協議会（CEAL）日本資料委員会の元に組織された日本古典籍小委員会が情報を取り纏め、国文学研究資料館がデータベースとして公開。	

（平成24年3月現在）

付表2 平成23年度 データベース利用統計 付：データベースサービスシステム総合窓口業務統計

データベース名	種 類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(1) 図書・雑誌所蔵目録(OPAC)	検索件数(h)	36,402	65,914	63,233	58,619	60,949	66,144	69,026	73,916	87,772	118,843	36,588	33,411	770,817
(2) 国文学論文目録データベース	検索件数(i)	60,336	80,992	87,609	82,580	60,388	69,733	87,028	91,420	80,106	70,426	39,824	33,686	844,128
(3) 日本古典籍総合目録	検索件数(i)	35,601	45,852	52,148	44,434	46,673	52,689	60,114	60,121	52,804	50,229	49,607	50,278	600,550
(4) マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録	検索件数(i)	5,414	7,742	7,661	7,215	8,685	7,261	6,673	7,285	7,196	8,060	11,822	7,921	92,935
(5) 日本古典資料調査データベース	検索件数(i)	1,048	1,397	1,895	2,210	2,320	2,489	1,974	1,775	3,772	2,051	1,853	1,836	24,620
(6) 近代書誌・近代画像データベース	検索件数(i)	1,534	1,847	1,536	1,412	1,872	1,700	1,382	887	1,459	936	1,061	1,051	16,677
(7) 明治期出版広告データベース (基本検索)	検索件数(i)	241	164	225	168	422	124	201	261	270	226	224	148	2,674
(個別広告検索)	検索件数(i)	118	9	11	3	325	17	46	270	562	312	348	281	2,302
(8) 日本古典文学本文データベース (2012.2.1 公開休止)	新規登録者数	10	17	16	16	11	13	23	10	13	8	-	-	137
(9-1) 古典選集本文データベース(二十一代集)	検索件数(i)	1,001	1,868	2,550	3,117	1,226	1,900	2,030	2,574	2,469	2,036	2,401	2,772	25,944
(9-2) 古典選集本文データベース(絵入源氏物語)	検索件数(i)	124	144	380	492	86	143	189	189	212	342	969	899	4,169
(9-3) 古典選集本文データベース(吾妻鏡)	検索件数(i)	635	985	1,185	803	581	922	1,265	1,393	1,222	2,027	1,142	987	13,147
(9-4) 古典選集本文データベース(歴史物語)	検索件数(i)	169	224	502	250	253	374	323	274	242	450	465	292	3,818
(10) 歴史人物画像(古典キャラクター)データベース (HTML ページ)	ページ閲覧数(a)	26,925	29,308	27,928	28,172	25,062	23,181	24,327	16,540	12,497	11,274	10,410	11,150	246,774
(全文検索版)	検索件数(i)	1,110	1,404	1,281	1,415	1,528	946	1,505	1,163	1,006	1,475	1,378	1,698	15,909
(11) 連歌・演能・雅楽データベース	検索件数(i)	212	235	211	317	238	269	328	253	281	311	457	247	3,359
(12) コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録	検索件数(i)	68	157	144	663	150	108	159	177	101	108	141	300	2,276
(13) 新奈良絵本画像データベース	ページ閲覧数(a)	1,343	1,810	2,929	1,686	1,313	1,738	1,768	1,378	1,480	1,971	1,609	1,389	20,414
(14) 史料情報共有化データベース	検索件数(i)	2,385	2,672	2,929	2,304	2,208	1,842	2,202	2,295	2,793	2,594	1,481	2,066	27,771
(15) 古事類苑データベース (テキスト版)	ページ閲覧数(a)	83,481	81,020	78,372	66,306	49,886	47,570	43,652	29,865	23,646	22,181	25,445	22,476	573,900
(全文検索版)	検索件数(i)	399	441	381	485	243	347	423	418	339	416	422	298	4,612

データベース名	種 類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(16) 古典学統合データベース(地下家伝・芳賀人名辞典)	検索件数(i)	305	205	328	593	464	292	194	397	375	229	841	432	4,655
(17) 収蔵歴史アーカイブズデータベース	利用回数(i)	482	432	371	346	382	379	347	345	345	393	447	363	4,632
(18) 和刻本漢籍総合データベース	検索件数(i)	193	206	266	229	158	136	204	193	185	200	181	154	2,305
(19) 古筆切所収情報データベース	検索件数(i)	230	236	255	407	291	304	266	309	371	169	612	283	3,733
(20) アーカイブズ学文献データベース	検索件数(i)	82	135	113	184	98	149	106	122	110	71	98	92	1,360
(21) 日本実業史博物館コレクションデータベース	検索件数(i)	201	144	224	107	200	83	307	176	174	129	207	125	2,077
(22) 館蔵神社明細帳データベース	検索件数(i)	247	416	208	112	232	302	362	355	364	259	190	167	3,214
(23) 伊豆菰山江川家文書データベース	利用回数(i)	76	66	110	52	113	88	117	92	71	47	82	69	983
(24) 伝記解題データベース	検索件数(i)	87	84	93	55	50	83	66	81	74	93	95	52	913
(25) 日本文学国際共同研究データベース	検索件数(i)	151	242	231	103	179	146	236	228	300	186	240	286	2,528
(26) 「史料所在情報・検索」システム (簡易版)	検索件数(i)	91	188	124	80	88	116	103	94	84	75	68	114	1,225
(詳細版)	検索件数(i)	0	24	11	10	0	31	16	4	2	0	0	0	98
(27) 蔵書印データベース (2012.3.29 公開)	検索件数(i)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1,085	1,085
(28) 所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像 データベース(2012.2.29 公開)	ページ閲覧数(a)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	93	489	582
(29) 北米日本古典籍所蔵機関ディレクトリ (2011.12.26 公開)	ページ閲覧数(a)	－	－	－	－	－	－	－	－	611	546	311	401	1,869
データベースサービスシステム総合窓口業務 件数	Web 受付	3	7	11	8	7	8	16	4	10	10	1	0	85
	e-mail 受付	6	10	9	11	8	10	10	14	15	19	11	12	135

動作環境

(i) : InfoLib

(a) : apache

(h) : HelloLibrary

3. 情報資料サービス事業部

【総括】

平成23年度から5か年計画で「所蔵古典籍・マイクロフィルム資料デジタル化によるグローバルな情報発信」事業が特別予算として計上され、当館所蔵古典籍原本及び、他機関にある原本で当館がマイクロフィルム収集したもののデジタル化をも推進している。今年度はデジタル撮影約1,900点及びマイクロ撮影している原本約3,000点のデジタル化を行った。デジタル化コマ単価が当初予定より低くなったため、年度計画を前倒して進めることとなった。そのため、デジタル化方法の追加や対象原本の拡大など計画全体の見直しを行っているところである。なお、平成23年度分のウェブ上での公開は平成24年を予定している。

インターネットでの画像公開の拡充は、所蔵資料の翻刻・掲載利用の増加などにも影響が見られ、今後ますます資料利用などが進むものと期待される。

さらに、来館利用も増加の傾向にあり、特に土曜日の利用が定着し利用者も増えてきている。利用者としては、研究者や学生などではない一般の利用が増えている。今後、年齢別や利用分野別などのデータの解析を行い、増加の内実を把握したいと考えている。

また、歴史関係の図書・雑誌の閲覧・複写や図書館を介しての貸し出しが増加している。これはOPAC公開（遡及入力）が進んでいることによりものと思われる。

【図書資料の収集・受入・整理】

(1) 概要

図書資料委員会で所蔵資料全体を考慮して計画をたて収集を行っている。また「鵜飼文庫」「田安德川家資料（田藩文庫ほか）」の2件の大型コレクションの寄贈を受けた。

マイクロ資料の目録作成に関しては、滞貨の解消に努め、今年度は約4,000件の書誌データの登録を行った。画像のウェブ上での公開には、対象資料の目録作成が不可欠であるため、収集マイクロフィルムからの画像公開が決定した文庫については、目録作成を優先した場合がある。また、平成20年度に受贈した歴史民俗博物館所蔵高松宮家伝来禁裏本の紙焼写真（約81,000コマ）については、昨年度ほぼデータ作成を終了し最終点検中である。

(2) 活動記録

①資料の受入

今年度の受入資料数及び主な寄贈・寄託資料は以下のとおりである。

資料1 図書資料受入統計

資料種別			点数等		冊数等	
			平成23年度	累 積	平成23年度	累 積
収 集 マ イ ク ロ 資 料	マイクロフィルム	日本文学	1,396点	186,391点	387リール	41,486リール
		歴 史	0件	193件	0リール	5,859リール
	マイクロフィッシュ	日本文学	0点	16,667点	0枚	57,358枚
		日本文学	-	-	101冊	75,122冊
	紙 焼 写 真 本	歴 史	-	-	0冊	11,196冊
図 書	写 本 ・ 版 本		2,466点	13,375点	10,474冊	47,943冊
	活 字 本 ・ 影 印 本 等		-	-	2,823冊	165,431冊
	逐 次 刊 行 物		1,917誌	8,243誌	-	-
所 蔵 史 料			6件	463件	-	約500,000点
寄 託 資 料 ・ 寄 託 史 料		日本文学	-1件	9件	-4,460冊	10,137冊
		歴 史	0件	17件	0件	7,032点

資料2 主な寄贈・寄託資料

申込種別		所蔵者（敬称略）	内容	点数	区分
寄贈	新規	鶴飼重行	鶴飼文庫	書籍1,433点 文書・記録類約4,500点	国文・歴史
寄贈	新規	渡邊雅子、 徳川宗英、 徳川陽子、 徳川宗広、 溝口文子、 松平宗紀	田安德川家資料（田藩文庫ほか）	850点	国文
寄贈	新規	川瀬 進	川瀬一馬著作原稿	約80包	国文
寄贈	新規	村田芳郎	烏丸家伝来村田家旧蔵書	6点	国文
寄託	追加	松野陽一	「千載集」ほか	9点	国文
寄託	追加*	坂田穂好	「春日本万葉集断簡」ほか	3点	国文

* 2点返還し3点追加寄託された

- ②貴重書・特別コレクションの指定
- 貴重書9点、特別コレクション2点を指定した。

資料3 新指定貴重書・特別コレクション

項目	請求記号・文庫番号	書名ほか
貴重書	99：158	長恨歌（写、3軸、奈良絵本）
	99：159	咸陽宮（写、2冊、奈良絵本）
	99：160	前九年軍記（写、1軸）
	99：161	源氏物語 若菜上残卷（写・鎌倉後期、1冊）
	99：162	玉編（刊・慶長9、5冊）
	99：163	摂津名所図会 自筆稿本（写、巻六・八、2冊）
	99：164	新古今和歌集撰歌草稿（写、1幅）
	99：165	源氏物語（写・鎌倉後期ほか、16冊）
	99：166	両総紀行（写、鹿都部真顔自筆、1冊）
特別コレクション	15	田安德川家資料（田藩文庫ほか）
	96	鶴飼文庫

- ③資料の整理・目録作成
- a. マイクロ資料目録作成
- ・書誌データ作成 約5,300件
 - ・書誌データ登録 約4,000件

資料4 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者	サービス区分	リール番号	件数
20	宮内庁書陵部	A'	677-821	1174
55	陽明文庫	E	821-853	1537
258	臼杵市立臼杵図書館	A	452-474	88
272	弘前市立図書館	A	330-354	85
321	鎌田共済会図書館	B	151-195	225
324	新潟大学附属図書館（佐野文庫）	B'	327-349	111
332	ノートルダム清心女子大学附属図書館	A	340-363	127
346	百々御所文庫	E	129-145	34
362	黒川地区公民館	A	106-130	52
363	鳥取県立図書館	A	178-197	96
364	大洲市立図書館（矢野玄道文庫）	A'	116-140	163
376	周南市立鹿野図書館（岩崎文庫）	B'	50-63	101
48	井上宗雄*	A	1-1	64
43	初瀬川文庫	A	135-157	134
52	光藤益子	A	99-115	46
				4037

b. 和古書・明治期資料の整理

- ・和古書の整理 1,012点
- ・明治期資料の整理 865点
- ・和古書目録書誌データ作成（登録） 703点
- ・明治期資料の書誌データ作成（登録） 247点

c. 活字本・影印本の整理・目録作成 2,103冊

d. 歴史関係図書・逐次刊行物の遡及入力

旧史料館所蔵の図書・逐次刊行物の目録遡及入力を継続して行っている。図書は3年間で全体約80,000冊のうち約3割がOPACで検索可能になった。逐次刊行物は国文との重複所蔵タイトルの所蔵巻号の移動調整を開始し、約480タイトルの所蔵巻号の一本化をおこなった。

【資料の保存】

(1) 概要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的に行っている。

(2) 活動記録

①文書・記録類の保存・修復処置

- a. 史料目録刊行済みの資料について、閲覧用ラベル貼付、中性紙封筒・帙・箱等の収納、状態調査記録作成、虫損・剥離箇所への部分修復処置等を行った。（6,202点、「信濃国松代真田家文書」「信濃国松代真田家中依田家文書」）

その他、必要に応じて別置分の組込、中性紙封筒・箱等への入替、部分修復処置等を行った。（36点、「武蔵国多摩郡連光寺村富沢家文書」「摂津国大坂玉水町加嶋屋長田家文書」「伊藤為

之助収集文書」ほか)

- b. 大韓民国国史編纂委員会による撮影に伴い、「守屋栄夫文書」の約半数(10,319点)について状態調査及び保存処置を行った。
- c. 正保期の日本全図の一種である『日本総図』の補修を行った。(専門家に依頼。2ヶ年計画の2年目)
- d. 山名八幡宮関係史料(武蔵国江戸蜷川家文書)の補修を行った。(専門家に依頼、43点)

②古典籍原本の保存・修復処置

a. 新収資料の害虫処理

新規受入資料は窒素により常時、殺虫処理を行っているが、大規模コレクション(「鶴飼文庫」「蜂谷家文書」)については二酸化炭素による殺虫処理を実施した。

b. 補修

虫損が著しく閲覧・撮影が困難な高乗勲文庫の『太平記・秋夜長物語』(写1冊)ほか11点を補修専門家に依頼した。

【利用者サービス】

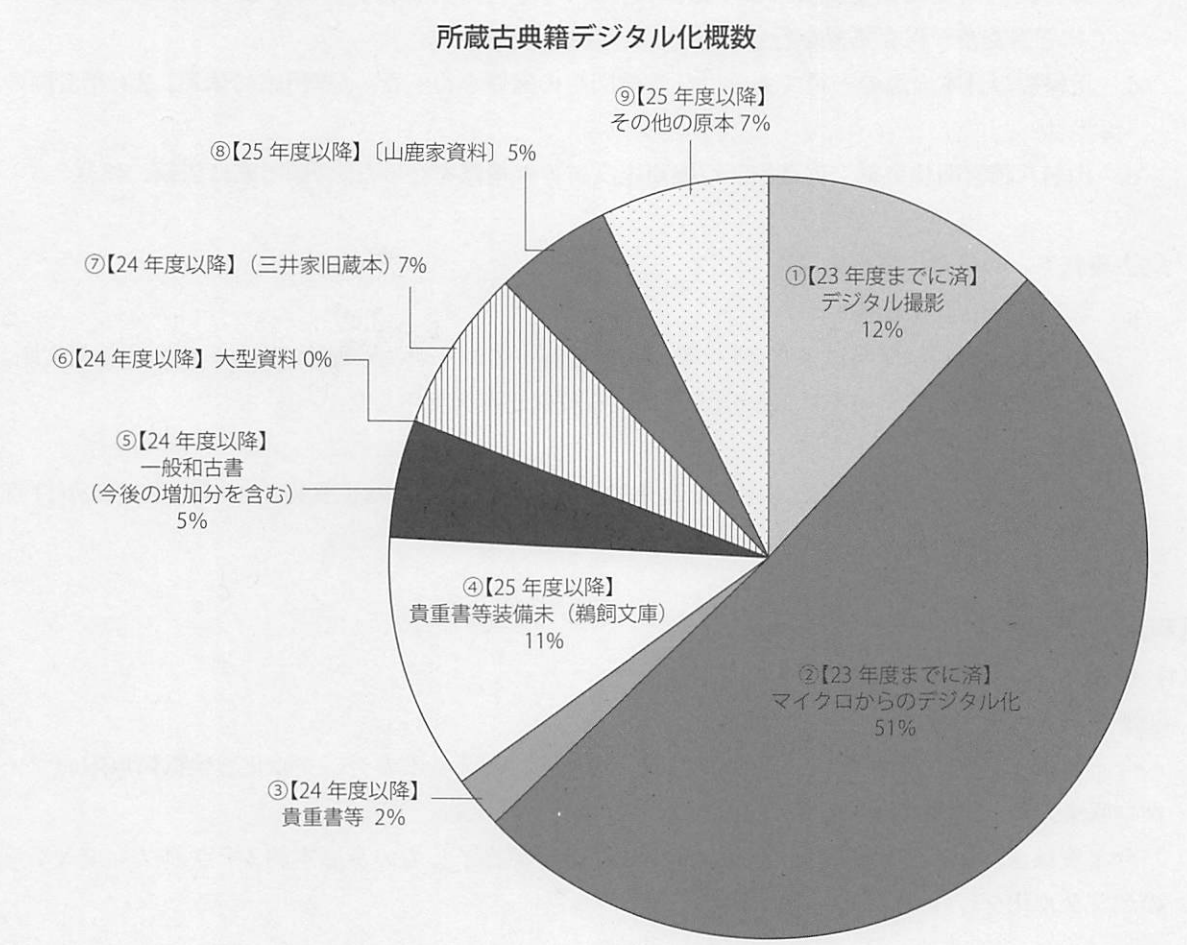
(1) 概要

①所蔵資料のデジタル化

今年度から5年計画でデジタル化の特別予算が付き、所蔵原本のデジタル化と他機関原本のマイクロ収集分のデジタル化を推進している。

今年度は、デジタル撮影約1,900点、マイクロ撮影が終了している原本約3千点のフィルムからのデジタル化を行った。

資料5 デジタル化の現状



デジタル化対象

No.	デジタル化年度	所蔵原本	コマ数	点数	冊数	備考
①	【23年度までに済】	デジタル撮影	391,902	2,662	9,047	
②	【23年度までに済】	マイクロからのデジタル化	1,745,042	9,356	31,194	
③	【24年度以降】	貴重書等	60,950	654	1,962	うち24年度に約5.6万コマ
④	【25年度以降】	貴重書等装備未（鶴飼文庫）	366,900	1,353	6,115	25年度予定
⑤	【24年度以降】	一般和古書（今後の増加分を含む）	185,000	1,250	4,250	うち24年度に約8.1万コマ
⑥	【24年度以降】	大型資料	500	50	50	うち24年度に約250コマ
⑦	【24年度以降】	（三井家旧蔵本）	240,200		4,335	24年度予定
⑧	【25年度以降】	〔山鹿家資料〕	180,000	1,040	3,000	
⑨	【25年度以降】	その他の原本	238,000	1,400	4,760	
		総 計	3,408,494		64,713	

網掛は概数

②インターネットでの画像公開

現在、所蔵和古書の貴重書・特別コレクション約1,700点、一般和古書約3,900点を今年公開している。

また、収集マイクロフィルムは、5文庫約5,000点が公開済みである。

(2) 活動記録

①資料の閲覧及び複写

平成23年度の開館日数は250日、新規登録者は1,616人、来館利用者数は8,052人で、昨年、一昨年に比べ増加傾向にある。

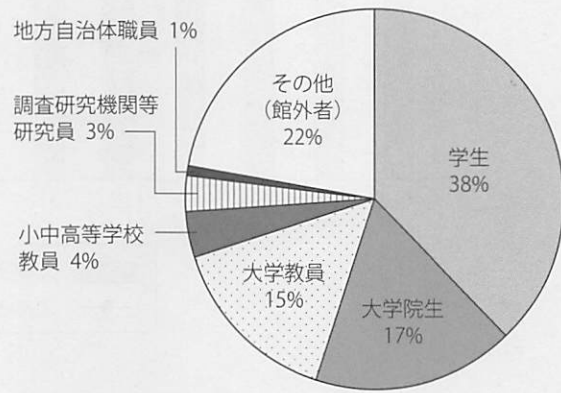
平日と土曜日の月毎の比較をすると、4月、8月、9月以外はほぼ土曜日のほうが利用者が多い傾向にある。

閉架資料の利用状況をみると、逐次刊行物と活字本・影印本が毎年増加している。これは、歴史関係資料のOPAC公開（週及入力）の効果が大きいと思われる。

また、郵送やFAXでの個人からの複写申込がリーダープリンターを含む代行コピーの4分の1を超えていて、来館せずに複写を申し込む傾向が見られる。

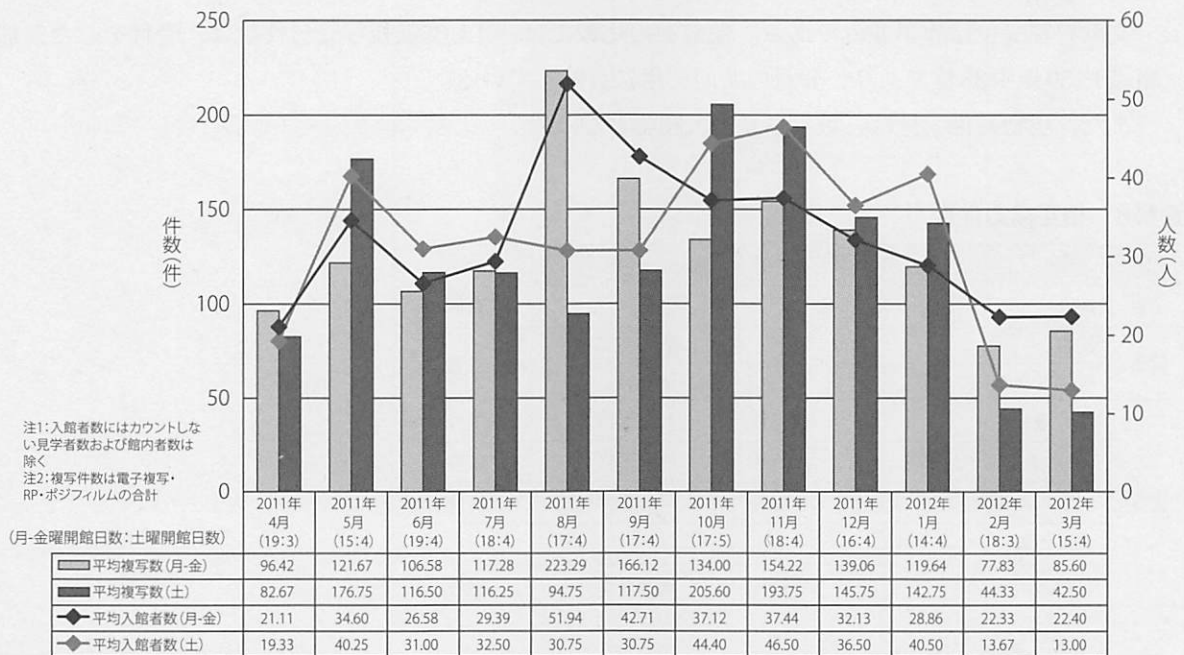
資料6 来館利用者の構成

利用者内訳	平成23年度
学生	3,044
大学院生	1,396
大学教員	1,212
小中高等学校教員	284
調査研究機関等研究員	252
地方自治体職員	96
その他（館外者）	1,768
総 計	8,052

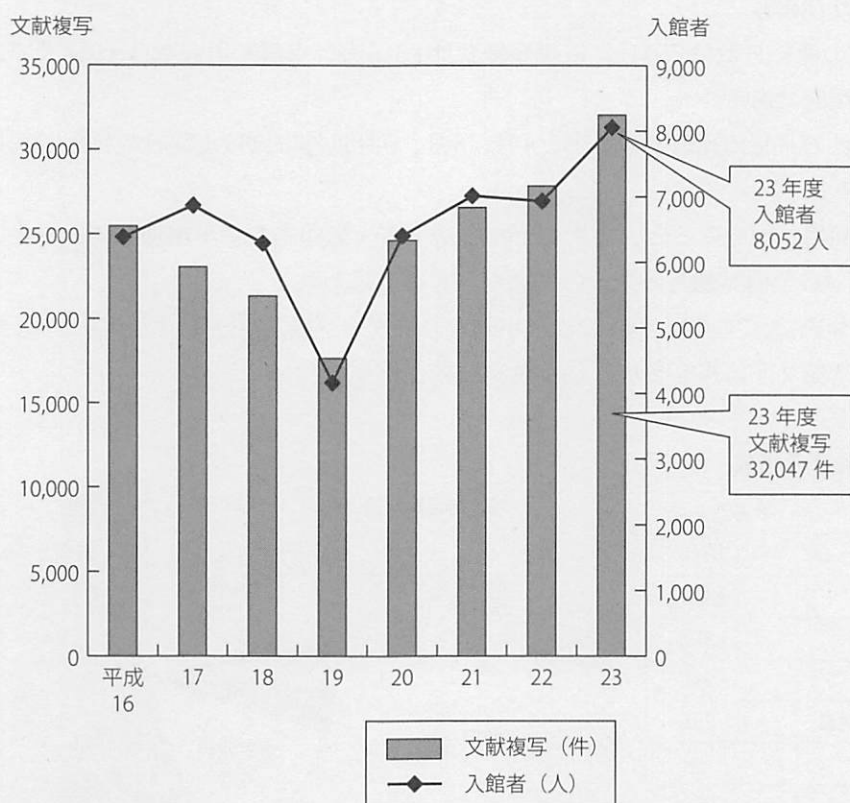


資料7 平日と土曜日の比較

平日・土における平均入館者数及び複写件数の比較（2011年度）



参考資料 来館利用数比較



平成18年度：アスベスト工事により3ヶ月間休館
 平成19年度：移転準備のため6ヶ月間休館
 平成20年度：7月から土曜開館・隔週水曜休館
 平成22年度：地震・計画停電のため5日間休館、
 2日間正午以降休館

②相互協力サービス

文献複写受付は昨年並みである。他館との比較では、ILL文献複写受付件数は、受付をした参加組織1,159館中38位であり、資料の共同利用に貢献している。

また、現物貸借受付は、数年ぶりの大幅増となった。

資料8 相互協力件数

項 目		受 付		依 頼
閲覧	紹介状	－		30件
貸借	図書	65件、65点、65冊		8件8点8冊
	紙焼写真本	46件、46点、56冊		
複写	電子複写	2,788件	19,969枚	9件
	RPによる電子複写	756件	66,926枚	32件
	フィルム複製	0件	0コマ	28件
	紙焼複製	－	－	－
	合計	3,544件	86,895枚	69件

③レファレンスサービス

日本文学・歴史資料分野のレファレンスサービスを継続しておこなった。

資料9 レファレンスサービス件数

質問の種類		平成23年度
文書による質問		32
メールによる質問	窓口業務システムへの質問※	85
	問合せメール	245
電話による質問	所蔵調査	236
	利用についての問い合わせ	770
	内容調査	84
クイック・レファレンス		
合 計		1452

※窓口業務システムは24年2月中旬より休止中。

④掲載許可申請受付（平成23年度決裁分）

翻刻掲載25件、写真掲載240件を受け付けた。写真掲載のうち数種の要件に該当した69件は無償、また、翻刻掲載はすべて無償である。所蔵資料のデジタル公開の進捗に伴い、写真掲載の依頼が徐々に増加している。

⑤資料の展示貸付（展示開始が今年度のもの） 11件

資料10 展示貸付一覧

番号	貸出機関	展示内容	展示期間	貸出資料	点数
1	真田宝物館	大名の旅 松代藩の参勤交代	平成23年9月～12月	御帰城御供一卷（信濃国松代真田家文書のうち）ほか	8
2	豊橋市二川宿本陣資料館	歴史の道 姫街道展	平成23年10月～11月	遠江国引佐郡気賀町差出帳（遠江国引佐郡気賀宿中村家文書のうち）ほか	25
3	福井市立郷土歴史博物館	御三卿 一橋徳川家と田安德川家	平成23年10月～11月	摘要冠辞考（田安德川家資料のうち）ほか	8
4	飯能市郷土館	飯能炎上	平成23年10月～12月	（振武軍呼出二付廻状）のうち3通（武蔵国多摩郡連光寺村富沢家文書のうち）	3
5	野田市郷土博物館	「野田のせんべい」展	平成23年10月～12月	江戸名物菓子双六（日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち）ほか	2
6	すみだ郷土文化資料館	まちができる 本所開拓とインフラ整備	平成23年10月～12月	大川通御船蔵并本所筋川々没御手伝御用被蒙候一件（信濃国松代真田家文書のうち）	1
7	福井県立こども歴史文化館	「ふくいのだ・ヴィンチ 佐々木長淳・忠次郎父子」展	平成23年10月～12月	浅田文書 二（越前史料のうち）ほか	2
8	国立歴史民俗博物館	風景の記録 写真資料を考える	平成23年11月～24年1月	Le Japon illustre	1
9	中野市立博物館	高橋由一の油絵 江戸から明治を生きた近代洋画の開拓者	平成24年2月～3月	（書状、八日午前八時頃より尊来のこと）（信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書）ほか	5
10	土浦市立博物館	土屋政直 土浦藩主の横顔	平成24年3月～5月	御成日記 四 被下物之部（常陸国土浦土屋家文書）ほか	24
11	国立歴史民俗博物館	都市を描く 京都と江戸（第1部 洛中洛外図屏風と風俗画）	平成24年3月～5月	京童・都名所図会	2
	合 計				81

【古典籍総合目録事業】

(1) 概要

『国書総目録』（岩波書店刊）を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。その成果として『古典籍総合目録』（当館編・岩波書店刊）を刊行し、他方、データベースを公開している。平成18年末に従来の「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」を統合し、マイクロ／デジタル資料和古書目録データベースを含めた「日本古典籍総合目録」データベースを公開し、古典籍の書誌・所在情報を、著作及び著者の典拠情報とともに広く提供している。

(2) 活動記録

下記のとおりデータ作成等を実施した。

①データソースの収集、所蔵者との連絡（書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等）

②書誌データの作成（登録） 約7,500件

資料11 古典籍総合目録データの作成 所蔵者・目録一覧

所蔵者	コレクション	目録	データ数
大阪大学附属図書館		大阪大学附属図書館蔵和古書目録第二稿	103
金沢市立玉川図書館近世史料館	西尾文庫	西尾文庫目録	281
岐阜市歴史博物館	陶玄亭コレクション	陶玄亭コレクション目録	185
高梁中央図書館	桜井文庫ほか	高梁市立中央図書館所蔵古書分類目録	645
竹田市立図書館	吉良家蔵書	吉良家漢蔵書目録	115
東海大学中央図書館	桃園文庫	桃園文庫目録	234
長崎県立長崎図書館	長崎文庫ほか	長崎県立長崎図書館古典籍目録	1021
二松学舎大学図書館	竹清馬越文庫ほか	二松学舎大学附属図書館和書目録	1449
二松学舎大学図書館	竹清馬越文庫ほか	二松学舎大学附属図書館漢籍目録	278
早稲田大学図書館	上野理旧蔵書	上野理旧蔵資料目録	258
広島大学附属図書館	教科書コレクション	広島大学附属図書館所蔵教科書コレクション画像データベース目録	224
宮城県登米市教育委員会	寿庵文庫	寿庵文庫目録	109
龍谷大学図書館	写字台文庫ほか	龍谷大学大宮図書館和漢古典籍分類目録 歴史之部（国書）	1514
龍谷大学図書館	写字台文庫ほか	龍谷大学大宮図書館和漢古典籍分類目録 哲学・芸能之部	1048
合計			7464

③基礎データ（典拠データ）追加・改訂

日常的に生じる追加・改訂のほか、平成23年12月から当館で維持している基礎データへの参照がNACSIS-CATの規則に盛り込まれたことに伴い、今後外部からの質問や改訂への要望の増加が予想されることから、それらに対応する窓口等の体制を整えた。

【電子化推進事業】

(1) 概要

古典籍総合目録業務を円滑に行うため業務用データベースの開発を行った。本年度は、業務の根幹部分である書誌入力部分の開発を行った。本開発の運用開始により、データ入力及び公開作業の効率の向上が見込まれる。

(2) 活動記録

①システム維持・更新

- a. 画像公開システムの表示速度を向上させるため、画像公開方式の変更、画像形式の一括変換を行った。
- b. 業務データベース（マイクロ目録・館蔵和古書目録・古典籍総合目録で共用）の開発を昨年度に引き続き行った。

②デジタル画像公開

- a. 所蔵和古書のリンク作業
- b. 収集マイクロデジタル化の支援
- c. 収蔵歴史アーカイブズデータベースほか画像公開の支援
- d. 画像管理データベースの作成

資料12 主な画像公開データベース

マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録	館蔵和古書画像 約5,600件 収集マイクロ画像 約4,900件 (デジタルを収集含む)
収蔵歴史アーカイブズデータベース	約2,600件
近代書誌・近代画像データベース	約1,600件
日本実業史博物館コレクション	約7,000件

資料13 古典籍デジタル画像閲覧統計（上位10件と総計）

書名（請求記号）	件数
洛陽名所集（99：55）	373
隅田川兩岸一覽（99：120）	165
節用集（99：44）	114
滑稽富士詣（ナ4：749）	110
無垢浄光大陀羅尼經（99：85）	109
手拭合（99：99）	108
赤染衛門集（12：291）	105
栲亭稿（87：73）	104
十帖源氏（12：486）	104
愛日樓文詩／附日光山行記（ナ8：20）	101
総計	26,154

※作品単位リクエスト件数を集計

4. 学術企画連携部

i) 国際交流室

【第35回国際日本文学研究集会】

日 程：11月26日（土）・27日（日）

場 所：大会議室

主 催：国文学研究資料館

テーマ：「〈場所〉の記憶－テキストと空間－」

目 的：日本文学研究者による研究発表・講演・討議により、広い視野からの日本文学研究の進展を図り、研究者相互の国際交流を深めるため、毎年度秋に開催している。

参加者：132名（外国人41名、日本人91名）

*研究発表者等は、一般応募者の中から国際日本文学研究集会委員会の決定に基づき、主として若手研究者を対象として選考した。

*発表時間が25分の研究発表、発表時間が15分のショートセッション及び資料掲示による説明コーナーでの発表（ポスターセッション）を設けている。

*研究発表11本、ショートセッション7本、ポスターセッション8本及び公開講演1本が行われた。

*研究集会参加者が、開催中の特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承」についても見学できるようプログラムの調整を行った。

【国際シンポジウム等の開催】

①日本古典籍（くずし字）講習会

日 程：(1) 6月29日～7月1日、(2) 10月25日～10月27日、(3) 2月13日～2月15日

場 所：(1) オクスフォード大学（連合王国）、(2) ルーヴァン大学（ベルギー王国）、
(3) チューリッヒ大学（スイス連邦）

主 催：国文学研究資料館

共 催：日本関係資料専門家欧州協会（EAJRS）

目 的：日本学資料専門ライブラリアンやキュレーター、学生、研究者を対象に、ヨーロッパの全国各地の機関が現地主催機関として開催する。講師は当館教員が日本語で行い、年1～2回開催する。

②ヨーロッパ日本研究学会第13回国際大会（13th International Conference of EAJS）

日 程：8月24日～8月27日

場 所：タリン大学（エストニア共和国）

主 催：ヨーロッパ日本研究学会（EAJS）

テーマ：パネル研究発表「新しい日本古典研究—データベースを使って出来ること」

目 的：EAJSにおいてパネル研究発表を行うことにより、当館マイクロ資料のデジタル公開の広報活動を行い、ヨーロッパの日本文学研究者と交流を行う。

参加者：700名（外国人500名、日本人200名）

今西祐一郎、武井協三、小林健二、中村康夫、海野圭介（他経費）

③日本文学国際共同研究集会（於イタリア）

日 程：9月14日

場 所：ボローニャ大学（イタリア共和国）

主 催：国文学研究資料館（AISTUGIA 日程連携）

テーマ：第3回日本文学国際共同研究集会「表現様式の交流」

目 的：専門的な学術発表を行うとともに、イタリア若手研究者及び大学院生の発表についてコメントを述べるなど指導的発言を行うことにより、多くのイタリア日本文学研究者と交流を深める。

参加者：30名（外国人20名、日本人10名）

武井協三、山下則子

④「日中書籍史比較研究」ワークショップ

日 程：2月2日・3日

場 所：国文学研究資料館、宮内庁書陵部

主 催：国文学研究資料館

テーマ：古典籍の出版と流通—日中書物史の比較研究

目 的：昨年度12月に中国国家図書館で開催された国際集会の成果を生かすために、中国書物史の専門家を招聘し、出版と流通を中心に日中両国の出版文化の比較研究を行うため開催する。

*中国から国家図書館古籍館副館長の陳紅彦氏、同館員の楊照坤氏、北京大学中文系教授の劉玉才氏及び同教授の潘建国氏を招聘した。

⑤インド国際日本文学研究集会

日 程：2月19日

場 所：国際交流基金ニューデリー日本文化センター（インド共和国）

主 催：ネルー大学（インド共和国）、〔後援〕国文学研究資料館、国際交流基金

テーマ：「日本文学研究の現在」

目 的：インド共和国（デリー）を会場として開催し、日本文学に関する情報交換と研究報告を通して、日本文学の理解を深め研究成果の共有を目指すものである。

参加者：伊藤鉄也、神作研一、山田哲好

*平成16年度から本年度まで毎年開催（平成19年度は除く）してきたが、第7回をもって終了する。

第1回～第7回までの記録を冊子として取りまとめたものを刊行する。

〔参考〕

上記のほか、科学研究費等により当館教員が主導又は深く関与している国際研究集会等は次のとおりである。また、教員個々の海外の国際学会への参加（講演・研究発表を含む）も多い。

(1) 7月18日に高麗大学校日本研究センター（大韓民国）において、九州大学韓国研究センター、高麗大学校日本研究センター及びBK21 中日言語文化教育研究団との共催で「国際研究集会 in Seoul」を開催した。また、翌日の19日に韓国国立中央図書館において第2回学術交流プログラムを開催した。

(2) 8月8日～12日にライデン大学図書館（オランダ王国）において、国際共同研究に伴う資料調査を人間文化研究機構の日本関連在外資料国際共同研究で行った。

(3) 9月8日～9日にコレージュ・ド・フランス（フランス共和国）において、国際シンポジウム「集と断片—日本に於ける「類聚」という営み—」を開催した。

(4) 9月16日～17日にコロンビア大学（アメリカ合衆国）において、当館とコロンビア大学の共催

でシンポジウム「日本の視覚文化—芸能・メディア・テクスト—」を開催した。

- (5) 10月21日～22日にロンドン大学SOAS講堂及び大英博物館（連合王国）において、当館、九州大学及び大英博物館の共催で「和本ワークショップ・イン・ロンドン」を開催した。
- (6) 11月16日～17日に韓国国立中央図書館（大韓民国）において、古典籍資料を通じての国際交流を実施した。学術交流協定に基づき高麗大学校から大学院生2名が参加した。
- (7) 12月9日にアンカラ大学（トルコ共和国）において「紛争処理の文書」というテーマで国際シンポジウムを開催した。人間文化研究機構連携研究「9-19世紀文書資料の多元的複眼的比較研究」により、トルコ人研究者2名と日本人研究者2名による報告とコメントを実施した。
- (8) 2月27日～3月3日にライデン大学図書館（オランダ王国）において、国際共同研究に伴う資料調査を実施。
- (9) 3月4日～10日にコレージュ・ド・フランス（フランス共和国）において、日仏共同研究のワークショップ及び研究会を実施予定。
- (10) 3月18日～21日に韓国国立中央図書館（大韓民国）において、古典籍資料を通じての国際交流を実施予定。

【外国人研究員の招聘】

①崔京国氏

所 属・職 名：明知大学校・日語日文学科・教授

期 間：9月1日～2月29日

参加共同研究：「近世的表现様式と知の越境—文学・芸能・絵画による総合研究—」

* 11月27日に第35回国際日本文学研究集会の公開講演において、当館客員教員として講演を行った。

上記の他、外来研究員として金泰賢氏（高麗大学校日本研究センター HK 研究教授）を受け入れた。

【学術交流協定による国際交流】

- ①高麗大学校日本研究センターと「国際研究集会 in Seoul」を開催。
- ②コレージュ・ド・フランスと国際シンポジウム「集と断片—日本に於ける「類聚」という営み—」を開催。
- ③イタリアにおける日本文学国際共同研究集会
- ④コロンビア大学とシンポジウム「日本の視覚文化—芸能・メディア・テクスト—」を開催。
- ⑤ライデン大学図書館でシーボルト関係日本古典籍の共同調査。
- ⑥高麗大学校の大学院生2名と、韓国国立中央図書館において古典籍資料を通じて交流を図った。
- ⑦高麗大学校日本研究センターとの学術交流協定に基づき外来研究員として1名受け入れた。

ii) 展示企画室

【展 示】

①研究展示「近世の和歌御会二〇〇年—久世家文書にみる公家の文事—」

概 要：公募型共同研究「久世家文書の総合的研究」（平成21年度～平成23年度 研究代表者：日下幸男（龍谷大学教授））による研究成果の一部として、当館蔵及び龍谷大学日下幸男研究室蔵の古文書・典籍を中心とした近世公家社会と文学（主として和歌）についての展示を行った。

日 程：平成23年5月23日（月）～6月24日（金） 25日間 ※土曜、日曜、祝日は休室

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

鑑賞者：661名

②特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承」

概 要：本展では、財団法人陽明文庫に収蔵されている近衛家伝来の品の中から、王朝和歌文化に関連する資料を多数出品した。特に特定研究「陽明文庫における歌合資料の総合的研究」（平成21年度～平成23年度 研究代表者：中村康夫教授）の成果として、平安時代に編纂された歌合の記録や、近衛家の歴代当主の文芸活動を示す和歌懐紙、近世の近衛家と皇室との関わりを示す宸翰（歴代天皇の筆跡）なども併せて展示した。

さらに、近衛家伝来の名宝として有名な古筆の名品も多く展示することで、近衛家という家の核として伝えられた王朝和歌文化の世界を観覧者に実感していただく展示とした。

日 程：平成23年10月8日（土）～12月4日（日） 51日間

※月曜は休室（10月10日を除く。）

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

後 援：朝日新聞社

鑑賞者：2,845名

③人間文化研究機構連携展示「都市を描く—京都と江戸— 第Ⅱ部「江戸名所と風俗画」

概 要：中世～近世の都市社会を知る上で、具体的な都市を題材に描かれ記述された絵画や地誌はきわめて重要な素材である。しかし、その利用はまだ十分な形では行われていない。国立歴史民俗博物館と当館の教員を中心に、「都市風俗画研究会」として人間文化研究機構連携研究などによる研究を行ってきたが、それを踏まえて、人間文化研究機構に所蔵されている資源を中心に、連携展示の形で広く公開し、そこに何が描かれているのかをご覧いただく機会を作りたい。都市としては、資料が豊富な京都と江戸を取り上げ、主な資料としては、洛中洛外図屏風や風俗画を中心とする絵画と、「名所図会」などの絵入りの版本を扱う。

日 程：平成24年3月28日（水）～5月6日（日） 28日間

※5月5日（土・祝）、6日（日）は開催

※日曜、月曜は休室

※4月30日（月）・5月3日（木・祝）、4日（金・祝）は休室

場 所：当館展示室

主 催：人間文化研究機構、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館

関連行事

シンポジウム：「描かれた都市の風俗と名所—江戸を中心に—」

日 時：4月14日（土）13:00～15:30

会 場：当館大会議室

iii) 広報出版室

【講演会】

①連続講演

日本文芸の普及を図り、古典について広く深く理解してもらうため、第一線で活躍している研究者による連続講演（全5回）を、平成12年度から開催している。平成23年度は特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承」と関連して、「古典資料の創造と伝承」と題し、財団法人陽明文庫・文庫長 名和修氏による連続講演を行った。

名 称：平成23年度連続講演

テーマ：古典資料の創造と伝承

講 師：名和 修（財団法人陽明文庫・文庫長）

日 程：10月14日、10月28日、11月11日、11月18日、12月2日

14時30分～16時00分

第1回	10月14日（金）	近衛家陽明文庫の名宝	132名
第2回	10月28日（金）	御堂関白記（1）	133名
第3回	11月11日（金）	御堂関白記（2）	107名
第4回	11月18日（金）	歌合（1）	108名
第5回	12月2日（金）	歌合（2）	116名

場 所：当館大会議室

参加者数：596名（延べ）

②サテライト講座

当館が品川区から立川市へ移転したことを踏まえ、移転前から来館していた閲覧者など、都心の利用者に向けた講座をエッサム神田ホールで開催した。

本年は「近世芸能の世界」をテーマに武井協三副館長、山下則子教授が講演を行い、各講演終了後に参加者から多数の質問が出るなど、大変盛況であった。

名 称：平成23年度サテライト講座

テーマ：近世芸能の世界

講 演：「鶴屋南北の歌舞伎－取材源としての書物－」 山下 則子（当館研究部教授）

「近松門左衛門の魅力－「曾根崎心中」二つの道行」 武井 協三（当館副館長）

日 程：11月19日（土）13:00～16:00

場 所：エッサム神田ホール

参加者数：54名

③特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承」事前講演会

10月8日（土）～12月8日（木）から当館にて開催する特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承」に先駆け、現陽明文庫長である名和修氏を講師に迎え、公開講演会を開催した。

名 称：特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承」事前講演会

日 程：9月19日（月・祝）14:00～15:30

場 所：東京ウィメンズプラザ

参加者数：156名

【アーカイブズ・カレッジ】

多様な史料資料を取扱う専門的人材を養成するため、長期コース・短期コースをそれぞれ年1回開催した。また、カリキュラム等の改善を図るため、講義を担当する教員を中心にカリキュラム研究会を実施した。

長期コースは、前期7月19日（火）から4週間、後期8月29日（月）から4週間の日程で国文学研究資料館において開催し、41名（受講者のうち2名は特別聴講。）が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は13名、大学院生は28名であった。なお今年度、長期コースの全6科目を修了した30名に修了証書を授与した。短期コースは、11月7日（月）～12日（土）に小樽商科大学、小樽市立小樽文学館の施設をお借りして開催され、23名が受講した。（受講者は史料保存機関職員や大学教職員などの社会人のみであり、受講者のうち5名は特別聴講。）

①長期コース

日 程：7月19日（火）～8月12日（金）、8月29日（月）～9月22日（金）

場 所：当館オリエンテーション室ほか

受講者：41名（受講者のうち2名は特別聴講。）

②短期コース

日 程：11月8日（月）～18日（金）

場 所：小樽商科大学、小樽市立小樽文学館ほか

受講者：23名（受講者のうち5名は特別聴講。）

【日本古典籍講習会】

日本古典籍講習会は、日本古典籍の整理・目録化を促進し、広く活用されるよう環境の整備を図るため、書誌学の専門知識や整理方法の技術修得を目的として、各所蔵機関の図書館員等を対象に、平成15年度から開始したもので、今年度で9回目である。第1回の平成15年度は、海外の図書館員等を対象として5日間開催、16年度は国立国会図書館の協力を得て開催、17年度からは、国立国会図書館との共催で開催している。第2回（16年度）以降は、国内の図書館員等を対象に3日間開催している。今年度は、平成24年1月18日（水）から20日（金）の3日間に開催し、最初の2日間は当館で、最終日は国立国会図書館を会場として行った。大学図書館等26名、公共図書館等3名、計29名が受講した。

日 程：1月18日（水）～20日（金）

場 所：当館大会議室、国立国会図書館

受講者：29名

【夏休み子ども見学デー】

毎年8月に開催している「夏休み子ども見学デー」を8月5日（金）に開催した。「夏休み子ども見学デー」は、法人化された平成16年度から実施しているもので、今回が8回目となる。今年は対象を小学校4年生～6年生に絞り、立川市やその周辺地域の小学校にチラシを配布するなどして参加者の募集を行った。

当日の参加者は小学生22名の他、立川第10小学校の校長先生及び保護者の方7名が参加した。

イベントは、最初に今西祐一郎館長の挨拶があった後、閲覧室等の見学が行われ、その後青柳隆志氏（東京成徳大学人文学部教授）を講師として十二単衣の着装の実演を行い、引き続きカルタ取り大会が行われた。カルタ取り大会では、今年も3名の講師（青柳隆志氏、兼築信行氏（早稲田大学文学学術院教授）、内池三郎氏（日本国語教育学会理事））をお招きし、狩衣姿で宮中歌会始めと

同じ読み方で百人一首の和歌の披講が行われた。

日 程：8月5日（金）14時00分～16時30分

場 所： 当館大会議室

内 容： （1）館内見学

（2）十二単衣の着装

青柳隆志（東京成徳大学人文学部教授）

（3）百人一首カルタ取り大会

青柳隆志（東京成徳大学人文学部教授）

兼築信行（早稲田大学文学学術院教授）

内池三郎（日本国語教育学会理事）

参加者：28名（内訳：子ども22名、保護者等7名）

【出版関係】

①平成23年度国文学研究資料館紀要の発行

当館教員の研究成果を社会に還元する一環として、年度毎に研究紀要を発行している。

平成23年度は、文学研究篇第38号、アーカイブズ研究篇第8号を刊行する予定。

②研究成果刊行促進制度

本制度は、当館の研究をより広く社会に還元するため、研究成果の出版を希望する当館の共同研究に対して、内容等を審査の上で、出版に要する経費の一部を当館が負担し、出版物の刊行を促進することを目的として実施している。

平成23年度は、1件の申請があり、学術企画連携部広報出版室において、外部委員を含めた審査会を実施した結果、1件の申請を採択し、本制度を適用することとした。

③国文研ニュースの発行

当館の広報記事や研究内容を紹介する定期刊行物として年に4回発行する。

平成23年度は、23号～26号の4冊を発行し、関係機関に配布するとともに、催し物の際に来館者に配布した。

④概要の作成

平成23年度の当館概要を作成した。

【広報関係】

①当館Webページのリニューアル

当館のWebページについて、平成23年4月13日に全面的にリニューアルを行った。

②多摩モノレール「高松駅」での広報活動

昨年8月より、多摩モノレール「高松駅」改札内の広報用展示スペースを借用し、当館の広報スペースとして概要等の展示を実施している。なお、この広報については、来年度も継続していく予定である。

③立川地区の広報誌「えくてびあん」への連載

立川地区で無料配布されている月刊広報誌「えくてびあん」において、平成22年9月号より、当館の教員に焦点を当て、当館の事業の内容を紹介する記事を連載しており、平成23年10月号までの全14回を掲載した。

④カレンダーの作成

当館のカレンダーを新たに作成し、関係各所へ配布した。今後も毎年作成していく予定である。